

5分⁽¹⁾

確認問題

7 古典(1)

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

（三重）

或人、*清水へまゐりけるに、老いたる尼の行きつれたりけるが、道すがら「*さめくさめ」と言ひもて行きければ、「尼御前、何事をかくはのたまふぞ」と問ひけれども、答へもせず、なほ言ひやまざりけるを、度々問はれて、うち腹たちて、

「やや、鼻ひたる時、かくまじなはねば死ぬるなりと申せば、養ひ君の、*比叡山

（お育てした方で）

*児にておはしますが、ただ今もや鼻ひ給はんと思へば、かく申すぞかし」と言ひけり。有り難き志なりけんかし。

（「徒然草」より）

2 この古文の内容に合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

（2） 線工「言ひけり」のうち、主語が他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

（1） 線部「まゐりける」を現代仮名遣いに直して、すべて平仮名で書きなさい。

■ 清水^{きよみず}寺^{てら}のこと。

*くさめくさめ^{くしゃみ}が出たときのまじないの文句。

*比叡山^{ひえさん}延暦寺^{えんりくじ}のこと。

*児^こ＝勉学や行儀見習いのために寺に預けられている少年。

イ 或人は、清水への道すがら「くさめくさめ」と言い続ける或人に對して、老いた尼はないかと思い、清水への道すがら道連れになつた或人におまじないを言つてもらつた。

ウ 清水への道すがら「くさめくさめ」と言い続ける或人に対し、老いた尼は腹を立てて、「くさめくさめ」とおまじないを言い続ける理由を問い合わせた。

7分

2

次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

〈佐賀改〉

線部「つくやう」を現代仮名遣いで書きなさい。

*常州の東城寺に、*円幸といひて、*寺法師にて学生ありけり。他事なく正教に眼まなこがくしやう。*正教に眼まなこがくしやう。圓城寺で学んだ僧がいた

をさらして、*顯密の勤行怠りなき上人にて、世間の事、無下に*無沙汰なり。

顯教や密教などの仏教の修行に熱心に励んだ上人で

ある時、弟子どもにいはく、「世間の人は愚かにて、思ひもよらぬ事を思ひは考えもつかないことを私は思つた

からひたり。杵きね一つにて白しろ二つをつくやうあるべし。一つの白しろをば常の如く置き、

一つの白しろをば下へ向けて吊るすべし。さて杵きねを上げ下ろさむに、二つの白しろをつく

べし」といふ。弟子のいはく、「上の白には物ものがたまり候ふべくはこそ、つき候たまるのでしたら、つけりしましようが

はめ」といへば、「この難こそありけれ」とて、詰まりけり。
詰義に詰まってしまった

(「沙石集」より)

【注】
*常州ひたちのくに（現在の茨城県の大部分）。

*円幸ひだりゆき（人名）。

*寺法師じぽうし（天台宗寺門派の総本山）の僧。

*正教じゆぎょう（正しい教え）。ここでは仏教のこと。

*顯密けんみつ（密教以外の教え）と密教（真言宗と天台宗の教え）。

*上人じょうじん（学識や人徳を備えた僧）。

*無下むげ（むげ）（下に）むやみに。ひどく。

*無沙汰むしゃた（知らないこと）。

2(1)

線部「つくやう」を現代仮名遣いで書きなさい。

——線部「この難こそありけれ」について、次の各間に答えなさい。

① この文は、途中に「こそ」が入ったことで文末の語の活用形が変化したものである。このような古文特有のきまりを何というか書きなさい。

——

4(3) 第二段落に示された逸話（エピソード）から、円幸はどのような人物だとい

うことがわかるか。その人物像を最もよく表している部分を、古文中から十五字以内で書き抜きなさい。（句読点・符号も字数に含める。）

から。

